



朝九小だより

朝霞市立朝霞第九小学校

令和7年 2月28日 (金)

3月号 児童数 393名

TEL: 048-466-4481

<http://www.asakada9shou.city-asaka.ed.jp>



【学校教育目標】 「心豊かでたくましい人間の育成」

すすんで学ぶ子 思いやりのある子 たくましい子

【めざす学校像】 「元氣なあいさつと明るい笑顔で輝きのある学校」



感謝の気持ちとたくさんの素晴らしい思い出を胸に！

校長 小林 美加

いよいよ3月に入りました。先日の各学年の授業参観（発表会含む）・懇談会には多くの保護者の皆様にご来校いただきありがとうございました。子供達の学習の様子や一生懸命に練習してきた成果、また、この一年間で成長した姿も見ていただくことができたことと思います。ご家庭でも、よかったところや頑張ったところについてなど、話していただけるとありがたいです。

授業日数も残り少なくなり、6年生は卒業まであと15日です。本日「6年生を送る会」が行われ、1～5年生がこれまでの学校生活のいろいろな場面で6年生に対して感じている感謝の気持ちを、どのように届けるか、どのような形で表すかを考え、呼びかけや歌、踊りなどで表現してくれました。また、6年生からもその気持ちにこたえるような合奏があり、胸が熱くなりました。別れの寂しさはありますが、たくさんの素晴らしい思い出を胸に、元氣よく九小を巣立ってほしいと思います。

さて、「幸せの青い鳥」のお話はご存じですか。ベルギーの劇作家モーリス・メーテルリンクによって1908年に発表された童話劇です。貧しい木こりの子供達（兄のチルチルと妹のミチル）が、夢の中で思い出の国や未来の国に行って幸福の象徴である「青い鳥」を探すお話です。夢の中では、見つけることができず、夢からさめて、自分の家に鳥がいたことを思い出し、「ぼくたちが探していた青い鳥は、これだ。ぼくたちずいぶん遠いところまで探しに行ったけど、あの鳥はずっとここにいたんだ」とお話は終わります。メーテルリンクは「みんなが考えているより、ずっとたくさんの幸福が世の中にはある。たいていの人はそれを見つけれないだけだ」と言っていたそうです。人生の喜びとは日々の中にあるということ。今日一日の小さな幸せに感謝すること。そうすることで、人生はもっと輝きを増すということを伝えたかったのかもしれませんが、また、素敵な思い出や家族との絆は、人生において強い精神的支えになり、自分を励まし、導いてくれる力になるということも伝えたかったのだと思います。私は、このお話を読んで、「幸せの青い鳥」は、みんなの心の中にいるのだと思いました。幸せかどうかは、自分の心が決めているのだと。

私達教職員にとって、学校で子供達が楽しく元氣に過ごし、たくさんの思い出を作って成長してくれることが一番の幸せです。子供達には、進級・進学を含め、先を考えてしっかり準備しながら、感謝の心を忘れず、今を精一杯楽しく過ごしてほしいと思います。

子供達にとって、地域や保護者の皆様は、とても大きく、大切な存在です。引き続き、あたたかいご理解とご協力をよろしくお願いいたします。